平成 28 年 7 月 26 日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 リ プ ロ セ ル
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　横 山　周 史
（コード番号：4978）
問合せ先　取 締 役 C F O　臼 井　大 祐
（TEL. 045-475-3887）

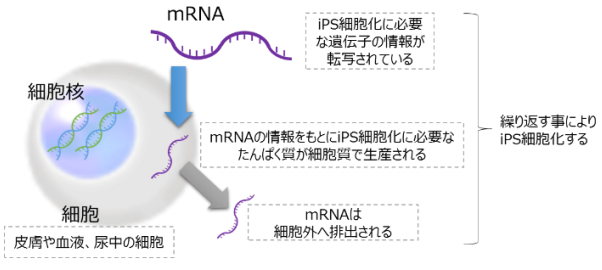
尿中の細胞からiPS細胞を作製する次世代RNAリプログラミング技術を用いた受託サービスの開始に関するお知らせ

この度、当社グループのStemgent社にて開発した、尿の細胞からiPS細胞を作製する事が出来る「次世代RNAリプログラミング技術」によるiPS細胞作製受託サービスを開始することをお知らせいたします。これまで、iPS細胞はヒトの皮膚および血液から作製することが一般的でしたが、尿からiPS細胞を作製する技術の事業化は当社が世界初となります。

皮膚や血液の細胞の採取は基本的に医療機関でしか行う事が出来ず、時間や場所に大きな制限が伴うほか、採取時には多少の痛みを伴うなど、患者には多くの負担がかかります。それに比べて尿は採取が極めて容易であり、採取場所や時間の制限も受けず、時間的、身体的負担を大幅に軽減することができます。

さらに、本次世代RNAリプログラミング技術では、尿だけでなく、従来と同様、皮膚や血液からもiPS細胞を作製することが可能でありますが、従来技術よりも、樹立効率および利便性が格段に向上しております。例えば、従来技術では、特定の疾患を持った患者ではiPS細胞を作製することが難しい事例もありましたが、本技術ではiPS細胞の樹立効率が大幅に改善されたため、より多くの患者からiPS細胞を作製することができます。
本次世代RNAリプログラミング技術では、iPS細胞を作製する過程で、細胞内の遺伝子の組み換えが起こらず、かつ、従来のようにウイルスを全く使用していないので、iPS細胞のガン化のリスクを大幅に低減することができます。非常に安全性の高いiPS細胞が作製できるため、再生医療に最適な技術と言えます。
なお、本技術の詳細は、2016年6月にアメリカのサンフランシスコで開かれた国際幹細胞学会（ISSCR）にて発表しております。

現時点での主なサービスの提供先としては国内外のiPS細胞研究機関や製薬企業などiPS細胞を取り扱っている団体や企業となり、範囲が限定的であることから、当事業年度の業績に与える影響は軽微であります。
「次世代RNAリプログラミング技術」は、今後当社の再生医療事業を支える技術の一つとして重要な位置づけとなり得る事業であり、当社グループは、これまでに培ったiPS 細胞の高い技術力と、グローバル規模での先端研究ネットワークを強みとして、今後とも再生医療の取り組みを積極的に進めてまいります。



以上